

## 平成29年度 社会福祉法人野洲慈恵会 事業報告

平成29年度は、第6期介護保険事業計画の最終年でした。今年度の法人運営としては、平成28年度から引き続き、平成27年度からの介護報酬減額や野洲市補助金の削減等に伴う財務状況の悪化への対応や、年々厳しさを増す職員確保の問題、さらに社会福祉法改正に伴う社会福祉法人制度改革への対応が大きな課題であり、また今後の中長期的な法人運営のあり方についても検討してきた1年でした。

### 1. 事業の実施状況（「平成29年度各事業別利用状況」参照）

介護保険事業においては、事業所により違いがあるものの、法人全体として平成28年度と比べると、特別養護老人ホーム・短期入所生活介護・居宅介護支援の各事業の利用率は増加しましたが、通所介護はほぼ横ばいでした。通所介護においては、8月から野洲市総合事業による通所型サービスA（緩和した基準によるサービス 3事業所で定員15人）を開始しました。

平成30年2月に特別養護老人ホームの利用者が入浴介護中に死亡する大きな事故があり、安全管理の重要性を改めて認識しました

保育事業では各事業とも利用人数は増加しており、特に一時保育は前年度に比べて約1.5倍に増加しました。

### 2. 財務の状況

財務の状況については、全職員が「コスト意識の徹底」をより一層推進し、「ムリ・ムダを省く」等経費節減を図り、効率的な事業運営を推進した結果、当初以上の成果を上げることが出来ました。

収益面については、13億36百万円を計上し（増加額56百万円・4.4%）介護・保育ともに目標を達成しました。これは、「処遇改善加算」があるとは言え、介護部門の効率運営・保育園の一時保育の増加等が大きく寄与しています。

費用面については、近年、介護職員確保が厳しい状況にあり、人材派遣・紹介会社に頼らざるを得ず、契約紹介料が年間10百万円（3百万円増）となりました。しかし、人件費抑制策として全職員にお願いし、年間賞与支給率を△0.2ヶ月減額した事を踏まえ、人件費比率が75.6%と前期比△2.4%減少しました。合わせ事業費・事務費等でコスト削減に努力した結果が費用全体の抑制効果となり、事業活動収支差額が52百万円を計上しました。これが結果として当期利益51百万円を計上する事になりました。

### 3. 人事や労務の状況

平成29年度は正規職員17人を採用しましたが新卒者は1人のみでした。特に介護職員・看護職員の採用が依然として厳しい状況にあり、派遣契約人数は減少しているものの、

法人への直接の応募が少なく、人材紹介会社を通じての採用が多くありました。

また正規職員の退職者は20人と昨年に比べて増加しており、離職率も12.7%と昨年度(11.5%)と比べて1.2ポイント増加しました。転職希望や個人的な事情による退職が半数以上を占めていますが、人材紹介を経て採用したものの、勤務条件等のミスマッチがあり退職に至ったケースも複数ありました。

#### 4. 経営組織の状況

平成28年4月1日から施行された改正社会福祉法に伴う社会福祉法人制度改革への対応については、平成29年4月1日施行の新たな定款に基づき、役員や評議員を選任し、理事会や評議員会等を実施してきました。

特に理事は8人中7人を法人内部から選任し、法人の課題についてできるだけ速やかに協議し対応できるような体制にするとともに、法人の各事業課題について専門的に協議するための部会制度を再編し、各理事が担当する体制にしました。

#### 5. 法人の中期的な事業展開について

野洲市内の特別養護老人ホーム待機者の解消や、小規模な施設の構造上、慢性的な赤字に陥っているぎおうの里の収支改善を目的として、特別養護老人ホームの増築について検討を実施するとともに、公設民営型での特養建設や補助金の復活について野洲市に要望を行いました。

また上記を踏まえ法人としての3年間の中期事業計画を作成して、法人運営の現状や課題、今後取り組むべき内容について整理を行いました。

以下、事業経過を報告します。

#### 1. 理事会・評議員会の開催状況

##### (1) 理事会

第1回 日時：平成29年6月5日(月) 14:00～16:00

場所：デイセンターさくら会議室

出席：理事6名 監事2名

欠席：理事2名 監事0名

議案：議第1号 平成28年度(社福)野洲慈恵会事業報告について

議第2号 平成28年度(社福)野洲慈恵会会計決算について

議第3号 (社福)野洲慈恵会経理規程の一部改正について

議第4号 次期役員候補者の推薦について

議第5号 定時評議員会の招集事項について

協議：なし

報告：①社会福祉充実残額について

②法人の借入残高および今後の返済予定

第2回 日時：平成29年6月20日（火） 13：00～13：30

場所：野洲市総合体育館会議室

出席：理事7名 監事2名

欠席：理事1名 監事0名

議案：議第6号 任期満了に伴う理事長等の選定について

協議：なし

報告：なし

第3回 日時：平成29年9月29日（火） 14：15～16：30

場所：デイセンターさくら会議室

出席：理事7名 監事2名

欠席：理事1名 監事0名

議案：議第7号 （社福）野洲慈恵会就業規則の一部改正について

議第8号 （社福）野洲慈恵会非常勤職員就業規則の一部改正について

議第9号 （社福）野洲慈恵会保育園就業規則の一部改正について

議第10号 （社福）野洲慈恵会保育園非常勤・臨時職員就業規則の一部改正について

議第11号 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について

協議：野洲市第7期介護保険事業計画に係る特別養護老人ホームの増床計画の応募（要望）について

報告：平成29年度事業状況報告について

第4回 日時：平成29年12月15日（金） 14：00～15：30

場所：ぎおうの里会議室

出席：理事8名 監事2名

欠席：理事0名 監事0名

議案：議第12号 法人の今後の事業運営と野洲市との協議について

議第13号 平成29年度第2回評議員会の開催について

協議：なし

報告：①立命館大学学内保育所入札参加について

②平成29年度事業状況報告について

第5回 日時：平成30年2月1日 14：00～15：30

場所：ぎおうの里会議室

出席：理事6名 監事2名

欠席：理事2名 監事0名

議案：議第14号 （社福）野洲慈恵会就業規則の一部改正について

議第15号 （社福）野洲慈恵会非常勤職員就業規則の一部改正について

- 議第 16 号 (社福) 野洲慈恵会保育園就業規則の一部改正について  
議第 17 号 (社福) 野洲慈恵会保育園非常勤・臨時職員就業規則の一部  
改正について  
議第 18 号 (社福) 野洲慈恵会保育園給与規程の一部改正について

協議：なし

報告：①野洲市への要望の経過について

②立命館大学学内保育所の入札辞退について

第 6 回 日時：平成 30 年 3 月 8 日 14：00～15：00

場所：ぎおうの里会議室

出席：理事 7 名 監事 2 名

欠席：理事 1 名 監事 0 名

議案：議第 19 号 (特養) あやめの里空調改修工事の入札業者の選定について

協議：なし

報告：なし

議第 17 号 評議員選任・解任委員の選任について

議第 18 号 評議員選任・解任委員会の開催について

議第 19 号 評議員候補者の推薦について

第 7 回 日時：平成 30 年 3 月 19 日 14：00～16：30

場所：ぎおうの里会議室

出席：理事 8 名 監事 2 名

欠席：理事 0 名 監事 0 名

議案：議第 20 号 平成 29 年度 (社福) 野洲慈恵会補正予算 (第 1 号) について

議第 21 号 平成 30 年度 (社福) 野洲慈恵会事業計画について

議第 22 号 平成 30 年度 (社福) 野洲慈恵会予算について

議第 23 号 平成 30 年度一時借入金の限度額を定めることについて

議第 24 号 理事候補者の推薦について

議第 25 号 評議員会の招集事項について

協議：なし

報告：①悠紀の里の入浴中の事故について

②野洲市第 7 期介護保険計画に伴う特養の応募について

## (2) 評議員会

第 1 回 日時：平成 29 年 6 月 20 日 10：00～12：30

場所：野洲市総合体育館会議室

出席：評議員 7 名 理事 7 名 監事 2 名

欠席：評議員 2 名 理事 1 名 監事 0 名

議案：議第 1 号 平成 28 年度（社福）野洲慈恵会事業報告について  
議第 2 号 平成 28 年度（社福）野洲慈恵会会計決算について  
議第 3 号 （社福）野洲慈恵会役員報酬等及び評議員選任・解任委員報酬  
等に関する規程について  
議第 4 号 新役員（理事・監事）の選任について

報告：①社会福祉充実残額について  
②野洲慈恵会の組織について  
③役員賠償保険について

第 2 回 日時：平成 29 年 12 月 25 日 14：00～16：15

場所：野洲市総合体育館会議室

出席：評議員 6 名 理事 7 名 監事 2 名

欠席：評議員 3 名 理事 1 名 監事 0 名

議案：議第 5 号 法人の今後の事業運営と野洲市との協議について

報告：①立命館大学学内保育所入札参加について

②平成 29 年度事業状況報告について

第 3 回 日時：平成 30 年 3 月 27 日 14：00～17：00

場所：野洲市総合体育館会議室

出席：評議員 8 名 理事 8 名 監事 2 名

欠席：評議員 1 名 理事 0 名 監事 0 名

議案：議第 6 号 平成 29 年度（社福）野洲慈恵会補正予算（第 1 号）について

議第 7 号 （社福）野洲慈恵会中期事業計画（平成 30 年度～平成 32 年  
度）について

議第 8 号 平成 30 年度（社福）野洲慈恵会事業計画について

議第 9 号 平成 30 年度（社福）野洲慈恵会予算について

議第 10 号 理事の選任について

報告：①悠紀の里の入浴中の事故について

②野洲市第 7 期介護保険計画に伴う特養の応募について

③立命館大学学内保育所入札辞退について

④役員報酬規程および評議員選任・解任委員報酬規程について

## 2. 評議員選任・解任委員会の開催状況

平成 29 年度の開催はなし

## 3. 監査の状況

(1) 監事監査

平成 29 年 5 月 22 日

(2) 滋賀県指導監査・実地指導

- ①ぎおうの里（短期入所） 平成 29 年 6 月 19 日  
 ②きたの保育園 書面監査  
 (3)野洲市指導監査・実地指導  
 ぎおうの里（特養） 平成 29 年 7 月 18 日

#### 4. 会議

- (1)経営会議 毎月第 3 金曜日に開催（年 12 回開催）  
 (2)施設長・事務局長会議 毎月第 2 金曜日に開催（年 12 回開催）  
 (3)法人本部会議 毎週月曜日に開催  
 (4)その他法人内会議

| 会議名                     | 開催日                                                                     | 主な協議内容                                                                                 |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 総合事業打ち合わせ会議             | 4 月 24 日、5 月 4 日<br>(年 2 回開催)                                           | 通所型サービス A の実施に向けて協議                                                                    |
| ショートステイ<br>相談員会議        | 8 月 9 日、11 月 1 日<br>12 月 7 日、1 月 11 日<br>2 月 3 日、3 月 8 日<br>(年 6 回開催)   | ・各施設の状況の共有<br>・利用率向上の取り組み<br>・算定可能な加算の協議<br>・共通の利用者の確認                                 |
| 第三者委員担<br>当者打ち合わせ<br>会議 | 4 月 21 日、7 月 31 日<br>11 月 16 日、2 月 15 日<br>(年 4 回開催)                    | ・第三者委員の活動について協議<br>・合同委員会の開催内容の協議                                                      |
| 法人調理室会議                 | 4 月 21 日、9 月 28 日<br>11 月 18 日<br>(年 3 回開催)                             | 食中毒等の発生時における対応や法人<br>内での相互協力の体制について協議                                                  |
| 法人居宅会議                  | 4 月 14 日、5 月 19 日<br>6 月 9 日、8 月 14 日<br>12 月 11 日、2 月 5 日<br>(年 6 回開催) | ・介護予防ケアマネジメントについて<br>・特定事業所集中減算の状況<br>・契約書や重要事項説明書の統一<br>・指定更新手続き<br>・実務研修実習受入れや対応について |

#### 5. 部会活動

##### (1)財務に関する部会

開催日：6 月 23 日、8 月 25 日、9 月 22 日、10 月 27 日、11 月 24 日、12 月 22 日  
 1 月 26 日、2 月 23 日（年 8 回開催）

協議内容：平成 28 年度収支状況と平成 29 年度予算について  
 中長期計画予算について

利用率向上に向けて  
利用状況について  
収支状況について  
時間外勤務削減に向けて  
職員代表の選出について  
人件費率の見直しについて  
決算見込みについて など

## (2) リスクに関する部会

開催日：6月28日、7月26日、8月23日、9月27日、10月25日、11月22日、  
12月26日、1月31日、2月28日、3月28日（年10回開催）

協議内容：感染症蔓延予防、感染症予防研修について  
各施設における事故（骨折等の重大事故含む）、苦情、車両事故について  
個人情報保護について  
電話対応、窓口対応についてのマニュアル  
BCP策定について  
水害対策「洪水時避難確保計画」について  
台風等自然災害時のリスクについて  
滋老協南部ブロック 防災に関する情報伝達訓練について  
悠紀の里・さくら 土砂災害避難訓練について  
入浴中の死亡事故について マニュアル作成 など

## (3) 地域貢献や広報に関する部会

開催日：6月6日、7月4日、8月1日、9月5日、10月3日、12月5日、  
1月9日、2月6日、3月6日（年9回開催）

協議内容：公益事業の法的根拠の明確化  
各事業所における地域貢献事業の分類  
地域ニーズの把握について  
地域における他法人等の事業実施状況の情報収集の方法について  
自法人の分析 など

## (4) 人事・人材育成に関する部会

### ①採用活動について検討する小部会

開催日：6月21日、7月19日、8月16日、9月20日、10月18日、11月15日、  
12月20日、1月17日、2月7日、3月1日（年10回開催）

協議内容：法人における採用活動の現状

法人が求める採用時の要件について

応募者を増やす方法や工夫について

各採用ツールの現状について

求人用パンフレットの検討

平成 29 年度第 2 回福祉職場の合同就職説明会への参加 など

## ②人材育成について検討する小部会

開催日：6 月 13 日、7 月 12 日、8 月 8 日、9 月 12 日、10 月 10 日、11 月 14 日、  
12 月 12 日、1 月 16 日、3 月 13 日（年 9 回開催）

協議内容：野洲慈恵会人材育成ガイドラインの作成

求められる職員像について

法人内で共通化する職場内 OFF-JT について

法人内で共通化する職場外 OFF-JT について

法人内で共通化する OJT の取り組みについて など

## ③研修企画について検討する小部会

開催日：6 月 20 日、7 月 18 日、8 月 21 日、9 月 19 日、10 月 10 日、11 月 21 日、  
12 月 19 日、1 月 23 日、2 月 20 日、3 月 20 日（年 10 回開催）

協議内容：平成 29 年度法人実践発表会について（企画・準備）

法人全体研修について

新任職員研修のあり方について など

## (5) 労働安全衛生部会

開催日：4 月 12 日、6 月 14 日、8 月 9 日、10 月 11 日、12 月 12 日、2 月 14 日  
（年 6 回開催）

協議内容：平成 29 年度の年間計画について

職員、利用者の状況について

平成 28 年度の労災報告について

職員健診について

保健指導情報共同利用について

大量調理マニュアルの対応確認

インフルエンザ、ノロウイルスに関する対応及び勤務の取扱いの確認

平成 29 年度ストレスチェックについて など

## 6. 採用・退職・労務状況

### (1) 採用・退職状況

(人)

|       | 職種 | 介護職員 | 看護職員 | 介護支援専門員 | 保育士 | 栄養・調理職員 | 事務・運転・宿直他 | 合計 |
|-------|----|------|------|---------|-----|---------|-----------|----|
| 正規職員  | 採用 | 10   | 4    | 0       | 2   | 0       | 1         | 17 |
|       | 退職 | 14   | 4    | 0       | 1   | 0       | 1         | 20 |
| 非正規職員 | 採用 | 6    | 5    | 0       | 0   | 4       | 6         | 21 |
|       | 退職 | 5    | 4    | 0       | 3   | 7       | 3         | 22 |

### (2) 労務状況

●長期休業者（傷病手当申請者） 3人 ①平成29年9月4日～平成30年3月31日  
(現在休職中) 私傷病

②平成29年12月1日～平成30年3月31日 (現在復職) 私傷病

③平成30年2月2日～平成30年2月9日 (現在復職) 私傷病

●育児休業取得 7人

①平成28年4月5日～平成29年4月12日 育休延長 現在就労

②平成28年7月18日～平成29年5月21日 現在就労

③平成28年8月21日～平成29年4月17日 育休短縮 現在就労

④平成28年10月5日～平成29年8月8日 現在就労

⑤平成28年10月5日～平成29年8月8日 現在就労

⑥平成29年2月10日～平成29年12月14日 現在退職

⑦平成29年7月4日～平成29年7月31日 パパ育休 現在退職

●介護休暇取得 なし

●看護休暇取得 なし

●業務上災害 7人

介護職員 7人 (腰痛5人、背中痛2人)

## 7. 人材確保・育成・研修

### (1) 求人活動

平成29年8月2日 第1回福祉職場の合同就職説明会

(滋賀県介護・福祉人材センター主催)

平成29年7月3日 高校就職説明訪問 (栗東高校、草津高校、綾羽高校、  
石部高校、湖南農業高校)

平成 29 年 7 月 4 日 高校就職説明訪問（野洲高校）  
平成 29 年 11 月 18 日 第 1 回介護のお仕事フェス（ビーサイドプランニング主催）  
平成 29 年 12 月 19 日 平成 29 年度職場説明会及び施設見学会（ぎおうの里）  
平成 29 年 3 月 6 日 第 2 回福祉職場の合同就職説明会  
(滋賀県介護・福祉人材センター主催)

## (2) 研修

### ① 新任職員研修

研 修 日：4 月 1 日、4 月 3 日、4 月 4 日（3 日間）

出席者 4 月 1 日：15 人 4 月 3 日・4 日：11 人

内 容 法人の理念・沿革、職員の心構え、法令遵守、法人諸規則、  
高齢者の生活支援、職業倫理、サービスの内容、職種間の連携、  
食事・嚥下体験、感染症予防、入浴体験、オムツ体験、車椅子体験

### ② 法人実践発表会

開 催 日：10 月 16 日（コミュニティセンターきたの 大ホール）

出席職員：99 人

発表内容：①「本当にこれでいいのか～葛藤の中での食事介助～」 悠紀の里  
②「共に歩んだ一年～毎日がドラマチック！～」 あやめの里  
③「ショートステイでの誤薬ゼロをめざして」 ぎおうの里  
④「いろいろあるのが当たり前」 きたの保育園

## (3) 外部での実践発表

### ① 悠紀の里

平成 29 年 11 月 9 日 第 8 回滋賀県老人福祉施設協議会研究協議大会

演 題：「実習生受け入れから選ばれる職場へのステップ～実習生指導を通して  
職員育成を考える～」

発表者：藤野愛、伊藤真美（悠紀の里びわ 介護職員）

### ② ぎおうの里

平成 29 年 12 月 17 日 認知症にかかる医療と介護の滋賀県大会ポスター発表

演 題：「住み慣れた地域で暮らすために～ともに支える地域づくり～」

発表者：細田麻里子 共同研究者：田中典子、三村正以子、奥村智恵子  
(ケアプランセンターぎおうの里 介護支援専門員)

### ③ きたの保育園

平成 29 年 6 月 9 日～6 月 11 日 第 56 回全国保育問題研究集会

演 題：「いろいろあるのがあたりまえ」

発表者：辻享子（保育士）

平成 29 年 8 月 5 日～8 月 7 日 第 49 回全国保育団体合同研究集会

演 題：「大きい子と小さい子がいる意味」

発表者：山田哲史（保育士）

#### (4)職員表彰

|                   |             |              |
|-------------------|-------------|--------------|
| ①野洲慈恵会永年勤続表彰      | 勤続 20 年：1 人 | 勤続 10 年：16 人 |
| ②滋賀県老人福祉施設協議会会長表彰 | 勤続 10 年：7 人 |              |
| ③滋賀県民間社会福祉事業職員共済会 | 勤続 20 年：1 人 | 勤続 10 年：6 人  |
| ④滋賀県社会福祉協議会会長表彰   | 勤続 15 年：4 人 |              |
| ⑤社会福祉関係功労者滋賀県知事表彰 | 勤続 20 年：1 人 |              |

### 8. 地域活動

#### (1)中北の家

##### 定期活動

たのしも会「かずさんちサロン」（高齢者や施設利用者のサロン）

毎月 1 回開催 延べ 107 人参加

おひさま会「ジイ&バア元気サロン」（聴覚に障害のある高齢者対象サロン）

毎月 1 回開催 延べ 91 人参加

認知症の人と家族の会「男性介護者のつどい」

毎月 1 回開催 延べ 107 人参加

工房かくれが 古布リサイクル工房

#### (2)夏祭り（参加者は利用者・職員を含む）

- ・きたの保育園 平成 29 年 7 月 29 日 参加者 420 人
- ・あやめの里 平成 29 年 7 月 30 日 参加者 190 人
- ・悠紀の里 平成 29 年 8 月 26 日 参加者 196 人
- ・ぎおうの里 平成 29 年 10 月 14 日 参加者 120 人（秋祭りとして実施）

#### (3)ボランティア交流会（参加者は職員含む）

- ・ぎおうの里 平成 30 年 3 月 11 日 参加者 32 人
- ・悠紀の里 平成 30 年 3 月 18 日 参加者 38 人

#### (4)地域との交流や地域貢献的な取り組み

##### ●悠紀の里

##### ①三上保育園児との交流会

平成 29 年 5 月 11 日 芋の苗植え 28 人

平成 29 年 10 月 11 日 芋掘り 30 人

##### ③三上幼稚園児との交流会

平成 29 年 6 月 16 日 16 人

平成 29 年 10 月 20 日 16 人

平成 29 年 12 月 15 日 13 人

④野洲中学校 職場体験 受け入れ

平成 29 年 6 月 5 日～6 月 9 日 3 人

⑤出前講座「介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らすために」

平成 30 年 1 月 24 日 万葉台サロン

平成 30 年 2 月 20 日 南桜サロン

⑥第 25 回コミセンみかみ「悠紀まつり」 介護相談会・わたがし屋

平成 29 年 11 月 19 日 わたがし 169 人に対応

●あやめの里

①喫茶サロン

平成 29 年 6 月 21 日 6 人

②吉川の子ども会地域交流 福祉施設と防災対策について学ぼう

平成 29 年 8 月 6 日 30 人

③民生児童委員・高齢部会（中主）勉強会「認知症の方との関わり方」

平成 29 年 10 月 18 日 10 人

④野洲市生涯学習センター出前講座

ア. 平成 29 年 11 月 21 日 27 人（小南ふれあいサロン）

イ. 平成 29 年 11 月 29 日 67 人（JA おうみ富士女性部）

ウ. 平成 30 年 2 月 8 日 19 人（吉川ふれあいサロン）

（ア～ウ：「認知症になったらどうしよう！ 地域での支え方お伝えします」）

エ. 平成 30 年 2 月 14 日 24 人（野洲市民生委員児童委員協議会高齢福祉部会）

（エ：高齢者福祉と介護保険サービス）

⑤吉川自治会 人権研修「認知症の方との関わり方」

平成 29 年 12 月 3 日 46 人

⑥吉川自治会 生活支援体制整備事業に伴う懇談会への参加

平成 29 年 12 月 7 日

⑦吉川ランチサロン（吉川自治会主催 あやめの里協賛）

平成 29 年 3 月 1 日 22 人

●ぎおうの里

①平成 29 年度第 1 回地域づくり勉強会

平成 29 年 8 月 24 日 24 人 事例を通して地域の支援を考える

②平成 29 年度第 2 回地域づくり勉強会

平成 29 年 2 月 23 日 28 人

在宅での看取りの事例を地域の支援を考える

③JA おうみ富士野洲地区・中主地区女性部学習会

平成 30 年 2 月 23 日 13 人

④介護等体験

平成 29 年 8 月 21 日～8 月 25 日 1 人（京都橘大学）

⑤中学校職場体験

6 月 5 日～6 月 9 日 野洲中学校 3 人

⑥大津家庭裁判所補導委託受け入れ

平成 29 年 8 月 31 日 1 人

●きたの保育園

平成 29 年 7 月 1 日 麴・甘酒作り 20 人

平成 29 年 7 月 8 日 お父さん会懇談会 12 人

平成 29 年 7 月 15 日 お父さん会夜の虫捕り大会 20 人

平成 29 年 7 月 24 日～8 月 26 日 卒園児夏休み里帰り保育受け入れ 50 人

平成 30 年 1 月 12 日 お父さん会親睦会 15 人

平成 30 年 1 月 27 日 ひしおづくりとお食事会 15 人

平成 30 年 1 月 27 日 お味噌づくり 20 人

平成 30 年 3 月 27 日 卒園児春休み里帰り保育受け入れ 3 人

9. 第三者委員の活動

(1) 定期の施設訪問

悠紀の里 訪問日 毎月第 2 金曜日 14:00～16:00 年 11 回訪問

ぎおうの里 訪問日 毎月第 2 金曜日 14:00～16:00 年 11 回訪問

あやめの里 訪問日 毎月第 4 金曜日 14:00～16:00 年 11 回訪問

(2) 会議

第三者委員合同委員会 平成 29 年 9 月 8 日、平成 30 年 3 月 23 日

10. 助成事業

あやめの里 職場定着支援助成金（特殊浴槽の入れ替え）

11. その他

滋賀県老人福祉施設協議会南部ブロック

「災害時における施設間相互支援に関する協定書」に調印

## 平成29年度 ぎおうの里事業報告（総括）

平成29年度は、第6期介護保険事業計画の最終年であり、平成28年度に引き続き、介護報酬改定や野洲市補助金の削減等に伴う収入減や、職員確保が困難なことによる人員不足など、厳しい経営環境の中で、地域密着型の高齢者福祉施設として、地域との関係を重視しながら事業を実施してきました。

平成29年度の事業計画においては、施設全体の総括として①年間利用率確保や加算算定による収支状況の改善、②職員の確保および施設内における人材育成の仕組みづくり、③老朽化に伴う特浴設備の更新、④非常災害時における事業継続計画の作成、⑤野洲市総合事業への対応、⑥利用者や家族・地域からのサービスに対する意見を施設運営に反映させる仕組みづくり、を項目としていましたが、その取り組み状況の要約については下記の通りです。

### 1. 年間利用率確保や加算算定による収支状況の改善

平成29年度の年間利用率は、当初年間目標としていた、特養97%、ショートステイ88%、デイサービス82%、居宅介護支援120件以上に対して、特養92.4%、ショートステイ86.6%、デイサービス79.1%、居宅介護支援125件（3月末）となり、居宅介護支援以外は年間目標を達成できませんでした。特に特養利用者の入院日数や入退所の増加、また冬季におけるショートステイやデイサービス利用者の入院者数の増加等により大きな影響を受けました。

また加算算定については、計画していた特養の日常生活継続支援加算や通所介護の認知症加算は要件が充足できたため算定することができました。

### 2. 職員の確保および施設内における人材育成の仕組みづくり

職員については、採用は正規4人、非正規4人、退職は正規4人、非正規7人となりました。採用した正規職員のうち3人は人材紹介会社を通じての採用でした。また退職した正規職員の退職理由は転居と体調不良とうによるものでした。

人材育成の仕組みづくりについては、新たな仕組みによる新任職員に対するOJTの実施や外部研修情報や研修報告の周知・閲覧についての仕組みづくりを実施しました。

### 3. 老朽化に伴う特浴設備の更新

老朽化に伴うデイサービスセンターの特浴設備について、当初検討していた補助金等の活用はできませんでしたが、12月に新しい特浴設備を整備しました。

### 4. 非常災害時における事業継続計画の作成

災害対策委員会の中で検討を開始しましたが、作成には至りませんでした。

### 5. 野洲市総合事業への対応

平成29年4月からの野洲市介護予防・日常生活支援総合事業について、地域の高齢者への介護予防・生活支援を目的として新たな通所サービスの実施を計画していましたが、4月1日から通所型サービス（現行相当サービス）、8月1日からは通所型サービスA（緩和した基準によるサービス）を実施し、平成29年度は延べ人数とし

て通所型サービス 216 人、通所型サービス A11 人の利用者がいました。

#### 6. サービスに対する意見を施設運営に反映させる仕組みづくり

利用者や家族・地域からのサービスに対する意見を施設運営に反映させる仕組みづくりについては、居宅介護支援事業所においては、利用者・家族を対象にした満足度に関するアンケート調査や分析を実施しましたが、特養・ショート・デイとしては実施できませんでした。

## 平成29年度 悠紀の里・悠紀の里びわ・デイセンターさくら 事業報告

生活棟の一部ユニット型への改修後8年目の年でした。そのハードを活かし、施設での生活が家庭に近い、個人を主体とした生活となれるような環境づくりを行ってきました。一方、昨年度に発生した感染症の蔓延の影響により、改修以降継続してきたユニット調理を中断するという判断をし、別の角度から日常生活支援を見直す年度となりました。

また、入所されている住民の方と在宅生活をされている方を含め、個別のニーズが把握できそれに応じたケアができるよう、介護技術や認知症をはじめとする疾患等の理解をすすめる取り組みを実施しました。これについては、一定の内外を合わせた研修に職員が参加し、施設内でそれを反映できるような取り組みも実施しました。

悠紀の里びわが地域密着型特養ということで認可され4年目の年でした。運営推進会議の場で、地域住民等の意見を積極的に伺い、「施設が地域で果たせる役割」について模索しました。万葉台、南櫻の老人会に出席し、「介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して暮らす」と題し説明を行い、地域のニーズの把握に努めました。

各部署利用率や経費削減の具体的な目標設定をし、毎月の運営会議にて確認し見直し等の取り組みを実施しましたが、長期入所以外は達成することができませんでした。

昨年度、感染症の蔓延による利用ストップ等で収入に大きく影響し、数百万円の減収につながってしまったことがあり、感染症予防委員会を中心に、感染症予防研修に積極的に取り組み、蔓延防止を達成することができました。

### 1. 年間利用率確保や加算算定による収支の状況の改善について

各部署利用率や経費削減の具体的な目標設定をし、毎月の運営会議にて確認し見直し等の取り組みを実施しましたが、長期入所以外は達成することができませんでした。

また、平成29年2月、および3月には、悠紀の里、さくらにて胃腸症状とインフルエンザによる多数の感染症症状の方が発生し、ショートステイの利用制限、体調不良による利用控えによる利用率の低下があり、地域や居宅介護支援事業所からの信頼を失うことになり、年度前半はその影響が続いてしまう結果となりました。

感染症予防の取り組みは、感染症予防委員会を中心に、全職員対象に複数回研修を実施し、最小限に抑えることができ、長期入所に関しては住民さんのインフルエンザ罹患を0に抑えることができました。

### 2. 職員の確保について

職員の確保について、介護職員、看護職員とも求人募集に対して、昨年度は派遣会社からの採用が増加し、人件費が増加する結果となっていましたので、派遣職員を減少させ、直接雇用職員への切り替えに向け取り組み、年度初めは5人いた派遣職員を1人まで減らすことができました。また、業務の見直しを随時行い、少ない職員でできる業務を常に模索し、試行しながら改善してきました。

### 3. 野洲市総合事業への対応

デイセンターさくらにおいて、平成29年8月1日から、通所型サービスA（緩和した基準に

よるサービス)を定員5名という規模で実施しました。通常規模型と合計すると40名が最大利用人数となり、設備、備品の関係で35名が実利用の限度である状況であり、その範囲で利用受け入れを行いました。

#### 4. サービスに対する意見を施設運営に反映させる仕組みづくり

サービス向上研修委員会を中心に、全サービスのご利用者、ご家族を対象とした満足度に関するアンケート調査を実施し、貴重なご意見、ニーズを聞かせていただくことができ、一部施設運営に反映させることができましたが、体制などの都合で反映できないところもあり課題が残りました。

#### 5. 施設におけるリスク管理について

長期入院につながるような骨折事故はなかったですが、入浴介助中、溺死されるという重大事故が発生しました。介護職員が一人で介助しており、30秒ほどその場を離れ、浴室に戻った時、溺れておられるところを発見。救急対応など可能な限り、救命措置を行いましたがお亡くなりになられるという痛ましい結果になってしまいました。ご本人はもとより、ご家族に対してもたいへん申し訳なく、施設および法人に重大な損害を与え、かつ対外的信用を落としてしまいました。生活支援の中でのリスク管理について、マニュアル整備や見直し、インシデント報告の仕方などについて課題が残りました。

## 平成 29 年度 高齢者福祉施設 あやめの里 事業報告

平成 28 年度まで、介護職員の定着のために、人材育成のしくみづくりに力を入れてきました。それを発揮すべく平成 29 年度につなげるために職員の主体性を大切にしていきたいという思いのもとスタートしました。その中で、在職中の職員は、忠実に利用者のケアへの反映につなげようと真摯に向き合ってきました。しかし、職員の充足ということにつながらず、限られた人材の中で取り組んできた 1 年となりました。

理念 「ひとりももれずに、住み慣れた地域で、その人らしく豊かにともに生きる」

Mission①合意形成「コンセンサス」を大切にします。

委員会活動 各委員会活動に各部署の職員が参加します。その際には、所属する職員の期待する役割に対して、上司との合意形成を行い、それを発揮できるような委員会活動として連携を行いました。

合意形成・コンセンサスとはということを職員が大切にできるように、委員会活動の中で自主企画研修を行いました。「みんな違ってそれでいい」というテーマで相手を認め、自分自身も大切にできるチームビルディングについて学び 71 人の職員が参加しました。

あやめの里の介護においては、その方の個性や大切にしてきたこだわり等を「その人らしさ」と定義づけ、関わるスタッフがその人の「らしさ」を尊重すること、発見することを大切にし、その発見を記録ツールで共有してきました。そのことで、ご利用者の居心地や存在を大切にすることでケアの質の向上につなげることができました。

また、それまではユニットごとに行ってきた余暇活動を、ご利用者の状況に合わせたアクティビティ活動として、各部署のメンバーで構成される「わくわく研究所」を発足し、レクリエーションの目的や方法を協議し、共に活動できる時間を持つことができるようになりました。ユニットの介護職員の参画により、ユニットの中でも簡単な活動をする機会が見受けられるようになりました。

人材育成の場面では、業務の中の職務を通して行う OJT を先輩個人に任せることなく、仕組みとして指導できる指導方法マニュアルや方法を共有して考えることができました。育成者と新任が同じ目標を持ち、段階的に指導することで、着実に成果がみえるようになりました。特に、どの場面でも必要な移動・移乗支援についてのカリキュラム作成ができました。

自己評価に関しては、評価項目の確認のみになってしまいました。平成 30 年度計画において、自己評価項目から課題共有できるようにつなげていく必要があります。

Mission② 機能的な組織マネジメント

5S の実践

情報ツールの一元化を行うことで、書類管理の効率化を図ることができました。各部署

の会議記録や事故報告書・行事起案書・報告書・委員会の記録等を共有フォルダ管理することで、どこからも作業・閲覧できるようになりました。決済後様式等は PDF 管理することで、パソコン内保管、様式活用を行うことができるようになりました。

機器整備については、火災通報装置の直通連絡がシステム化されました。ケア場面においては、特別浴（寝台浴）の入替と共に、リフトの設置を行い、利用者と職員にとっても安心・安全な入浴の手法をとることで、心地よい入浴ケアの展開ができるようになりました。当初の計画にあったエアコンの改修は平成 30 年度に移行しています。

人材の育成のしくみについては、BS 担当と OJT リーダーによる育成のしくみの実践を作成したカリキュラムを基に行いました。

ケアマネジメントの仕組みについては、介護支援専門員による各サービス計画書を基に各専門の個別計画書の作成を行い、専門性の発揮と多職種連携を行い、個別の支援実践につなげることができました。しかし、新任育成の Off-JT の時間確保とシステムの中に組み込めていないことから、根拠まで理解して実践されているのかという課題が残りました

### Mission③ 機能的な財務マネジメント

サービスの質の担保としての接遇への取り組みを行いました。外部講師による接遇研修（リーダー級対象）を実施し、以降各部署の取り組み目標を決定しました。掲示し、意識化することで目指す接遇が見え、合わせて外部評価（第三者委員）や介護相談員の方からの提言等も含めて、自分たちの態度・言動に向き合うことができました。中間期には、改善できていないこともありましたが、年度末には職員の関わり態度に変化がみられるようになりました。主任級においては「パワハラ自己研修」を行い、自分たちの言動・態度を振り返る機会をもちました。

あやめの里のパンフレットのリニューアルを行いました。広報委員会で職員の合意によるパンフレットで、職員の思いを表現しました。あと一步で仕上がる予定です。

上記の取り組みや、多職種連携の元、年間利用率、特養 97.5%、ショートステイ 93.6%、デイサービス 80.2%でした。

通所介護事業では総合支援事業の実施により、通所型サービス（みなし）通所型サービス A（緩和型）事業を展開しました。

また、デイサービスの利用者のインフルエンザの罹患者が 10 人以上となり、保健所への報告とともに、利用の控えのご協力等や標準予防策の徹底により感染拡大への対応に苦慮いたしました。高齢者の感染症対策としては、疑い時の隔離が重要であり、特に在宅で生活されている方は、ご家族やサービス事業所間の連携が重要と再確認いたしました。

地域貢献活動として、生涯学習センターへの登録による出前講座に 4 回、直接依頼の講座 2 回、特に認知症高齢者の関わり方に関心があるようでした。また、吉川自治会との協賛において、こども事業、ランチサロンを各 1 回ずつ開催することができました。地域の方が福祉や介護にご興味をもっていただくことから住みよい地域づくりへ貢献していきたいと考えます。

# 平成 29 年度 きたの保育園 事業報告

## 1) 運営について

- \*運営委員会、責任者会議、職員会議、食事委員会、各行事の実行委員会等を定期的に開催し、保育運営と保育実践の論議を積み重ねてきました。会議内容の整理をしながら進めてきましたが、まだまだ検討が必要です。
- \*保育実践については、日誌をもとにした具体的事例の振り返りをしながら論議してきました。どの立場の職員も積極的に発言することが多くなり、自らの保育を語りながら保育実践を深めてきています。その中でより今後の課題が見え、次の保育につなげることができました。
- \*研修では不十分ではありますが、経験年数別計画を持ち、特に中堅保育士を対象にした研修に年間を通して数回参加させることができました。そのことは、中堅保育士としての役割や重要性を自覚することができ、保育園内での様々な会議で反映され、保育内容の論議の充実につながりました。また、異年齢保育について全国規模の研修大会に提案することで、さらに異年齢保育について学びあうことができました。
- \*2018年度から施行される「新保育指針」にむけて、滋賀保育運動連絡会主催の京都大学名誉教授の鯨岡峻先生の研修に参加しました。また、園内でも大阪保育研究センター・元佛教大学教授の奥野隆一先生を総括会議に迎え、全職員で学ぶことができました。今後も、情勢も含めた幅広く且つ専門的な学びが課題です。

## 2) 保育事業

### (1) 2017年度の保育

#### ①保育

##### 暮らしのある保育（異年齢保育）

年間保育目標にある「子どもや保護者が安心できる保育園」「充実した暮らしのあるおうちで育つ子ども」をもとに、具体的な子ども達の姿を例に挙げながら職員会議・総括会議の中で論議を重ねてきました。近年「暮らしのある保育（異年齢保育）には『違い』が多く存在する」といった内容を確認してきました。

\*全国保育問題研究集会「異年齢分科会」への提案に向けて学習会を進める中で、人には『違い』があつてあたりまえであり、一人ひとりを認め合い、関わり合う子ども達の育ちを確認し、深めてきました。

\*総括会議では「心を満たし充実した生活をつくるために」というテーマを元に振り返りを行いました。『暮らし』の中には「人」「自然」「生活」など様々な要素があり、その中から子ども自らが「感じ・考え・学び」をしながら『感性』を磨いくことの大切さを確認しました。また、『感性』を磨く中で大切にすることは、「好きなこと（発達要求）」をとことん追求することだということも確認しました。

今後、大人の関わり方として「子どもの発達要求を個々に応じて把握すること」「子どもの発達要求に応えること」を土台に、つもり・ごっこの世界を大人も子どもと一緒に楽しむ取り組みを大切にしていきたいと考えています。

## ②食べること

食べることは心と身体の育ちに大きな位置を占めると考え、引き続き、豊かな暮らしの中でおいしく食べる営みを大事にしてきました。

\*子どもたちには、その日のごはんとおやつは何か厨房まで聞きに来る姿が多く見られ、毎日食べることを楽しみに生活しています。豊かな自然をいっぱいを感じ、食べられる植物に興味をもったり畑で育てた野菜を調理することにも意欲的な姿が見られ、食べることを全身で楽しむ感性が育ってきています。

\*日々の食卓の中では、子ども自らが食べたい・食べてみようという気持ちを元に、自分で食べられる量を決め意欲的に食べることを大切にしてきました。異年齢での生活では1人ひとりに合った食事の仕方が求められますが、配膳にはバイキング方式を取り入れたり、仲の良い友達と一緒に食べたりなど、自らの安心できる場でほっこりと食事を楽しむことができるような工夫を、クラスごとに試行錯誤しています。

\*例年取り組んでいる親子クッキングなどのほか、ぱくぱくデー（3～5歳児対象）や毎月の食に関するポスターを掲示するなどの新たな取り組みを行いました。そういった行事などは食卓での何気ない会話や関わりとなり、子どもたちの食への興味・関心を広げるきっかけとなっています。

\*近年、家庭でゆっくりと食を楽しむ時間をもつことが難しい現状が増えており、保育所給食に求められる役割は大きいと考えます。楽しくおいしく食べる豊かな保育園の食の営みをますます充実させていくとともに、その大切さを家庭とも共有し創りあっていくことが求められています。

## ③障がい児保育について

\*加配職員会議をしながら、日々の子どもの課題を明らかにし、実践を深めてきました。また、就学に向けても各関係機関との連携・保護者との懇談を重ねながら準備を進めてきました。

\*配慮が必要な子どもについては、巡回相談で保育相談をおこない、責任者会議や職員会議で報告、議論を行ってきました。今後、さらに障がい児保育についての理解と共有を深めていくために園内での学習が求められています。

## ④安全について

\*今年度も年度初め、全職員を対象にけがや事故を防ぐ安全についての意思統一を行いました。

\*通院件数は18件、そのうち12件は異常なし又は様子見、6件は切り傷による縫合処置でした。保育園のすべてのところで子どもは日々生活しています。安心して暮らせる環境を整えると共に大人の連携を密にとり、子どもの把握に努めてきました。また、子ども達にも注意喚起を視覚的に伝える場を持ってきました。安心して暮らせる環境を整えると共に、子ども自身が自らの安全について考え対応できる暮らしが大切です。

\*突然死予防と窒息死予防のために、0歳は5分おき、1歳は10分おきにチェックする体制をとりました。

\*職員の救命訓練講習を8月と12月に受講しました。

\*月2回施設・遊具の安全点検を行い、安心して生活ができる環境作りをしました。

## (2) 保護者と共に育てあっています。

様々な困難を抱える保護者が増え、保育園入所理由も多岐にわたっています。保護者のおかれている状況を把握し、丁寧に寄り添いながら関わってきました。慌ただしい日々の生活を余儀なくさせられて、家族の形態さえ奪われようとしている中で、保護者に対し、柔軟にかつ寛容に、関わっていくことが求められています。また、親は「完璧」であることを求められ、子育てがゆっくりと楽に楽しめることが出来ない状況にもあります。保護者の悩みになることが多い子どもの揺れ動く時期について保護者と共に考えあってきました。

\*毎日の生活表やおうち（クラス）だより、園便り、保育懇談会・クッキング懇談会、給食便り、送迎時のコミュニケーション等を通じて子供達の姿や保育で大切にしていることを伝え、また個人面談も持って子ども育ちについて理解と共有をはかってきました。

\*今年度も「げんき広場」をおうち対抗で楽しみ、「おうちのつどい」では、各おうちの独自性が出た内容となり親子で楽しむことができました。夏祭りや秋祭りでは、保育園と保護者会で実行委員会をつくり、互いが創る立場で力を合わせることができました。子育て仲間として互いにつながりあうことの心地よさを感じることができる取り組みがこれからも求められます。

\*卒園児の保護者が夏ごろから、卒園式の準備（第3部・保護者企画）をはじめられ、保護者が主体的に活動をする中で、保護者同士の交流も深まり、当日は子どもも保護者も職員もとても充実した時間を創ってもらうことができました。

\*今年度は保護者会と共催で署名活動にも取り組みました。待機児童問題の深刻化、低すぎる職員配置数や賃金による保育士不足、保護者が負担する高すぎる保育料など状況と課題をわかりやすく伝え、誰もが安心して預けられる保育園づくりのための署名学習と国会請願署名運動に取り組みました。今後も引き続き、保護者と一体となって進めていくことが求められます。

\*保護者会活動の中で、保育園における安全についてのアンケートが行われました。頂いたアンケート回答をもとに改めて職員間でも安全について話し合い、項目ごとに子どもの様子、対応についても論議しました。その後、保護者会役員と保育園で懇談会を持ちました。保育園の安全に対する考え方と、子ども達への指導についてお伝えしました。今後も定期的に懇談を持って、保護者と共に子ども達が安全に、のびのびと過ごすことができる保育園づくりについて考え合っていくことを確認しました。

## 3) 地域の子育て支援事業

### (きたの子育て支援センター)

平成29年度は、延べ15,278人の子どもとその保護者が「きたの子育て支援センター」を利用されました。センターを訪れる保護者はそれぞれ、色々な思いと背景を持っています。それぞれの願いや要求に沿って、年間通して保護者同士のつながりや親子の関係を深めるなどの取り組みをすると共に、心地よさを感じられるような場所をつくってききました。

\*わくわく遊びでは月ごとに遊びを決めておき、継続して遊びが続けられることで、子どもの思いが尊重され、保護者が負担を感じることなく遊びこむことができました。

\*0歳児サロン（ありんこ）では、毎月の10組の定員に対し、時期によって応募人数が

大きく差があり、前半期には、申し込みされてもお断りしなければいけない親子が数組発生しました。一緒に作業する機会や、互いの子どもを見合う場を持つことで、保護者同士の距離が近くなっていました。

\*月1回のパパデーでは、父親が参加しやすい雰囲気があり、パパデー以外の土曜日にも来所が見られました。父親ならではの視点や悩みが出る場面があったり、自分の子ども以外とも積極的に遊ばれる姿があったりと、周りの保護者にとってもよい経験となりました。

\*来所人数が年々増えていることもあり、ランチデーやちょこっと料理が気軽にしにくい環境があります。その中でもできる限り取り入れていた中で、家では食べないものも進んで食べる子どもの姿や、食を囲む中で、人と人の距離が近づく姿を見ることができました。

\*他機関との関りを積極的に持つようにしてきたことで、協力体制ができてきており、保護者の悩みに広く応えることができたり、情報の共有をすることでスムーズに対応ができていたりしました。

\*保護者の繋がりがその場だけの希薄なものであること、保護者の持っている力を出してもらう場が持てないかということ、支援センターを卒業していく親子と思い出づくりができないかということを目的に、2月に「冬まつり」を開催しました。保護者の力を存分に出してもらえ、保護者同士の関係を深めることにも繋がりました。その年々によって必要な支援を柔軟に取り入れることが必要だという再認識もでき、よい催しになったと感じます。

\*相談件数が207件ありました。保護者の思いを受け止め寄り添うことで、悩み自体の解決ではなく、保護者の育児が楽しい・子どもがかわいいという思いに近づけることができるように対応してきました。相談件数以外にも、会話の中で何気なく困っていることや、気にしていることを話される保護者もおられ、そのサインを見逃さないように保護者の思いをだしてもらえるように心掛けました。

## (一時保育)

2016年度の利用人数は903人、2017年度の利用数は1,552人となり、野洲市の待機児童の増加に比例し、一時保育の利用人数は著しく増加しています。

\*待機児童や産前産後での利用については、時間外の利用が多く、職員の体制を整えることが難しい状況がありました。昨年度の利用増加を踏まえ、今年度より受け入れ人数を増やして対応してきましたが、定員を越す利用希望に対し、こちらで優先順位をつけ、お断りしなければいけないことや、市外の方を受け入れて市内の方を断ることなど、対応の難しさがありました。

\*年度後半には、利用をお断りしなければいけないことがほぼ毎日ありました。また、スペースが狭くなり子ども同士のぶつかり合いや怪我など、安全面への配慮が求められました。

\*当園の努力だけでは困っている人全てに対応できないことを痛感し、一時保育の在り方を見つめ直す必要がありました。

\*就業・産前産後といった利用理由からも、毎日や頻繁に利用される子どもが多く、日々一時保育に慣れて成長を見せてくれ、職員・お友達と関係ができていくことができました。

た。

- \* 本当に困っている中での利用の方が多く、利用できることはもちろん、時間外や定員越えでもなんとか受け入れようとしていることに非常に感謝されている姿が見られ、保護者との信頼関係を構築することができました。
- \* すべての親子の背景を知る機会・時間が少なく、気になる家庭と認識しながらも、職員間で対応を深めることが十分にできず、外部機関と連携することも難しいことがありました。

#### **4) 職員の健康管理**

- \* 互いにその人らしさを認め合い、その人らしく仕事ができる環境、職員集団づくりが求められています。園内職員研修では、臨床心理士の谷口多賀子さんを迎え、メンタルな病気の理解、関わり方について学びあいました。今後も、メンタルサポート計画などを検討していきます。
- \* 今年度もインフルエンザの予防接種を全員うけ、またマスクの着用もこまめに行う事で感染症の拡大予防に努めてきました。

#### **5) 地域との交流**

- \* 夏・冬・春休みに小学生が1日「おうち」で在園児と生活を共にし、互いに心地よい時間を作ることができました。
- \* 中学生の体験学習や大学生の実習も受け入れてきましたが、今後も積極的に受け入れていくことが大切です。
- \* 地域とのつながりを深めていくために、ボランティアの方々をはじめ、様々な人との連携・交流が求められます。

#### **6) 地域の願いに応える事業展開**

- \* 今年度の一時保育利用者の中には、待機児童の利用が多くありました。保護者が安心して預けられる認可保育所の建設が求められています。引き続き、保育園建設の検討を行っていきます。